

U-net通信

2017年1月
Vol.93

あとから来る者のために
坂村 真民

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦勞をし
我慢をし
みなそれぞれ力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分ができる
なにかをしてゆくのだ

発行:NPO法人 地球環境共生ネットワーク 〒105-0014 東京都港区芝2丁目6番3号三宅ビル4F TEL:03-5427-2348 FAX:03-5427-5890 <http://www.unet.or.jp> 編集人:大山正治/発行人:比嘉照夫



EMによる国づくり

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

理事長 比嘉照夫

昨年は、EM技術が国際的に極めて高い評価を受けるという記念すべき年となり、各地におけるEMの社会化は更に深く広く着実なものとなりました。これも、ひとえに会員の皆様のたゆまざる真のボランティアのたまものであり、改めて感謝申し上げます。

エコピュア第112回やDNDの微生物の新しい姿“Dr. Higa's Theory”の応用 [<http://dndi.jp/mailmaga/mm/mm161020.php>] 以後のシリーズで紹介されたように、名古屋大学で開かれたユニバーサルビレッジ国際会議で、EM技術は人類の世紀的課題である食料(質と量)と環境、放射能を含む各種の汚染対策の決め手になり得るもので、ユニバーサルビレッジとしての地球のあり方を考えると、すべての関係者は、その技術を検証し発展させるべきであるという会長のコメントを載いたのです。

EM技術は、安全で快適、低コストで高品質、続ければ続ける程に善循環的に持続するというユニバーサルビレッジの本質的な力を持っています。この力を生活化し、社会化すれば、必然的にEMによる国づくりを達成することが出来ると言えます。



①会員に対するEM技術のスキルアップ

EM技術は日進月歩であり、その対応のため、各地で開催される善循環の輪の集いで、EMの最新情報をお伝えし、その具体的な活用についての指導を行ってきました。

EM活用による整流技術の応用も、ここ数年で実証試験は終わり、整流シールや整流ボトルを活用した結果(エネルギースポット)を作る技術も確立されました。したがって、作物の生育や品質向上、鳥獣害の被害対策、健康生活への応用が容易となり、これまでのEM技術の成果を格段に向上させることが可能となりました。今年、この恩恵がより多くの会員の皆様に届くようにしたいと思います。

②新たな水環境改善対策

これまで三河湾や東京湾の浄化は望ましいレベルを達成しましたが、今年、昨年スタートした諏訪湖、児島湖に続いて松島湾の浄化プロジェクトの支援に取り組みます。海外で行っている500~1000トン単位の活性液培養法を参考に、学校のプールを活用

し数年で成果が上がるような取り組みを目指します。

③EM技術による福島復興支援

2016EM災害復興支援プロジェクト事例集でも明らかのように、生活圏における放射能対策は、完璧なレベルに達しています。今年、その成果を更に大きく広げ、「うつくしまEMパラダイス」の社会的モデル事業に取り組み準備を進めており、関係者はすべて自信満々です。

④福祉施設支援業務のモデル化

数年前から福祉施設を中心に、誰もが安心して暮らせる理想郷作りに取り組み始めました。このプロジェクトは将来的には、高齢化社会の問題解決にも直結するものです。より多くの会員が、このプロジェクトに協力し、各々のスキルアップと更なる人生の喜びと楽しみを創る機会になれば幸いです。

今年もEM力が会員の皆様方の更なるエネルギー源になることを期待しています。



福祉施設の自立のため EM の新たな活用を

取材 / 大山

地域との連携がカギ

U-net 通信では長年、全国の沢山のボランティアの皆さんが河川浄化や環境美化活動などの様々な活動に EM を活用している現場取材してきた。平成 29 年度から新規事業の一つとして、福祉施設支援業務 (福祉施設での EM 活用) を展開していきたい。そこで、福祉業務等での EM 活用のあり方を検討する専門部会を立ち上げ、この業務での先進事例等を紹介し話し合い、福祉施設での EM 活用モデルを探っていきたいと思う。

専門部会のメンバーに U-net 理事・執行委員で高知県の障がい者施設運営に詳しい山下修氏、愛媛県で医療・教育・福祉施設等を運営するアトムグループの野本千壽子 (愛媛県世話人) さん、埼玉県の朝霞厚生病院の齋藤沙 (EM 研究機構) さんの三人を中心に、座談会形式での話しをまとめてみた。



▲座談会に参加の山下修氏(前列左)、野本千壽子さん(前列右)、後列左から齋藤沙さん、オブザーバーの吉澤文五郎理事、広報担当の大山正治理事

感染症対策で成果を上げている アトムグループ EM とことん推進隊

アトムグループは異業種経営をしており、その中の福祉施設で EM を活用したビジネスモデルを展開している。

9 年前、野本千壽子さんが施設長を任された幼稚園で、徹底した EM の環境づくりを行った結果、近隣の幼稚園では 80 名のインフルエンザ患者が出るなどの大流行にも拘わらず、野本さんの幼稚園では、4 年間、全く学級閉鎖を行う事態にならなかった。

この経験から、現在、野本さんが勤務する自立訓練障がい者就労支援センター・アルムの里でも掃除・手洗い等、徹底した EM 環境づくりに励んでいる。お陰で、利用者からも職員からも、ノロウィルス・インフルエンザの患者が出ていない。

現在、全国の福祉施設で、ボカシづくりが下火になっているが、新たな活用方法の魅力が伝えられていないということが原因と思われる。

アトムグループでは、海水の活性液やボカシ、波動の高い EM 団子、鳥獣対策用ペットボトルなどを作り、積極的な講習を行ない使い方を広めていったところ、果樹農家、家庭菜園愛好者、地域の環境づくり団体などから、どんどん注文が入るようになり、生産が間に合わない程になっている。



▲大好評の鳥獣対策用ペットボトル作り



▲自立訓練障がい者就労支援センター・アルムの里

さらに、アトムグループの各事業所では、EMとことん実践農場に、職員から出された生ゴミをバケツで堆肥化して提供されている(年間1000個を超える)が、職員から、「生ゴミはどう生かされているの?」との質問も上がったので、農園のHPを作って見える化したり、生ゴミバケツの数や質を評価する表彰制度を取り入れたので、EM推進のモチベーションが上がっている。

農業用と水質浄化用のEM団子を作り販路の拡大を 高知県しゃくなげ荘

福祉施設にEMを活用して福祉施設を盛り上げようという取り組みは高知県でもある。高知県内にある障がい者支援施設のしゃくなげ荘でも昔に比べると生ゴミ堆肥を作ろうという流れが落ち込んできている。その原因として前ほど農家がEMボカシを作って生ゴミ堆肥を作る事が無くなったからだ。時間と手間が掛けられなくなっている地域の農家をもう一度盛り上げられないかという事で、障がい者施設でEM活性液と、EM団子を用途に合った2種類を作製して売る事が出来ないかと考えている。



▲有機無農薬農家に好評なEM肥料を作り提供するしゃくなげ荘

介護施設と病院での活用

介護施設におけるEMの消臭等衛生対策の効果は実証済みであり、その活用の際は病院においても広がっている。千葉県の野田病院や埼玉県の朝霞厚生病院においては、院内から出る生ゴミをEMで堆肥化し農地に活用する事で、病院給食用有機野菜の提供を行っている。また、病院において法的に順守しなければならない規制を守りながら清掃へも活用されている。清掃へEMを活用する事で、院内の消臭や院内感染の原因菌の抑制効果が検証試験によって得られている。このような検証試験の結果は2016年10月に開催されたユニバーサルビレッジにて発表されており、今後もこのようなEMを活用する事による効果を検証したデータを蓄積して行く事が大切である。



▲野田病院の全景



▲朝霞厚生病院の全景

福祉施設に合うEMを活用する方法の開発を!

EMを活用する事にはたくさんの楽しみがある。それを知ってもらうには、各福祉施設に合うEMを効果的に活用する方法の開発などアイデアが必要だという事が分かった。今後の課題は施設の自立と、その中でEMをどのように活用できるのか。地域との連携や使ってくれる人をどう増やせるのだろうか。そうした疑問に答える事が出来るよう、今回紹介したアトムグループやしゃくなげ荘で実施されている現場や活動を実際に推進している方の話を集めた資料映像の作成を現在検討中である。完成を楽しみにしたい。

以上



ふくしまの「今」と「未来」をテーマに 第 6 回復興支援 環境フォーラムを開催しました

取材／針生

今年で第 6 回目となった復興支援 環境フォーラム。11 月 26 日、福島市の福島県教育会館を会場に、福島県内 27 団体・生産者が出展して『EM マルシェ』を開催した。EM を活用した野菜・米・果物などの農産物や関連商品を集め、安心・安全なふくしまを見て・食べて・味わっていただこうと行ったもの。27 日に開催した「第 6 回環境フォーラム」では、ベラルーシ国立科学アカデミー放射線生物学研究所・副所長のナタリア・ティモヒナ博士とアレクサンダー・ニキティン博士より EM 研究成果が報告された。

研究報告では、EM や EM ポカシの施用により放射性セシウムや放射性ストロンチウムの農作物への移行抑制効果が認められたほか、EM が表土中の放射性セシウムの垂直移動を促進し、放射性セシウムを低減していると考えられることが報告された。



▲EMによる放射能汚染対策の効果が確たるものとなった今年の環境フォーラムの様様



平成 29 年度 U-ネット 年間主要行事計画

開催日	行 事 名
2月25日(土)	U-ネット第18回通常総会
4月15日(土)	善循環の輪の集い(千葉)
6月24日(土)	善循環の輪の集い(広島)
7月17日(月・祝日)	全国一斉EM投入
8月26日(土)	善循環の輪の集い(神奈川)
27日(日)	世話人特別講座(関東甲信越地区)
9月16日(土)	善循環の輪の集い(京都)
17日(日)	世話人特別講座(近畿・中国地区)
10月7日(土)	善循環の輪の集い(鹿児島)
8日(日)	世話人特別講座(九州・沖縄地区)
10月14日(土)	善循環の輪の集い(香川)
15日(日)	世話人特別講座(四国地区)
28日(土)	善循環の輪の集い(札幌)
29日(日)	世話人特別講座(北海道・東北地区)
11月18日(土)	善循環の輪の集い(宮崎)
25日(土)	第7回復興支援 環境フォーラム(予)
12月9日(土)	善循環の輪の集い(三重)
10日(日)	世話人特別講座(東海・北陸地区)

i n f o r m a t i o n

事務局からのお知らせ

■これからの主要行事のご案内■

■NPO法人

地球環境共生ネットワーク 第18回通常総会

日時 日時: 2月25日(土) 13:30～17:40 (総会終了後、交流会)

会場 友愛会館 9階会議室

〒105-0014 東京都港区芝2-20-12 03-3453-5381